

経営理念

革新的価値の創造

王子グループが今後大きく飛躍していくためには、イノベーションが不可欠です。画期的な新製品の開発と、それを導く研究・技術開発。また、組織の仕組みや、従業員一人ひとりの行動に変革が求められています。斬新な発想で「チャレンジングなモノづくり」を行い、社会の潜在ニーズを充足していきます。

未来と世界への貢献

王子グループは多種多様な事業を抱え、グローバル企業へと成長しました。今後もアジア諸国をはじめとする積極的なグローバル展開を通じ、あらゆる国・地域・社会に「革新的価値」を提供し、新しい未来を創造する企業であり続けます。

環境・社会との共生

森林資源を核とする資源循環は、王子グループの基盤です。国内外に保有する広大な社有林の多方面での活用、各製造現場における環境負荷低減策の追求などを通じ、私たちの事業そのものが持続可能な社会に貢献できるよう、取り組みを発展させていきます。

パーパス(存在意義)

森林を健全に育て、
その森林資源を活かした製品を創造し、
社会に届けることで、
希望あふれる地球の未来の実現に向け、
時代を動かしていく

森を生かす

森林を健全で生き生きとした状態に育むことで、生物多様性保全、水源涵養や土砂災害防止など多面的な価値を最大限に引き出します。この地道な営みは国土強靱化に直結するだけでなく、林業や関連産業での持続可能な雇用を創出し、地区レベルにおける経済的・社会的な自立と発展を支える強固な土台となります。

森を活かす

森林資源を循環的に活用し、極限まで価値を高めた製品やサービスを社会に届けます。再生可能な木質由来製品で化石資源を代替するイノベーションにより、国や地域レベルでの持続可能な経済活動を牽引するとともに、自給率の向上を通じて経済安全保障の確立に大きく貢献します。

地球の未来へ

地区で「森を生かし」、地域で「森を活かす」価値創造の積み重ねこそが、地球規模の課題への答えです。カーボンニュートラルの達成、ネイチャーポジティブの実現、そして資源循環型社会の構築を同時に成し遂げ、私たちは希望あふれる地球の未来を力強く切り拓いていきます。

グローバルブランドマーク・タグライン



グローバルブランドマーク

OJIの向こう側に広がるのは、豊かな森林の景色。世界の暮らしに目を向け、地球の未来を見つめながら、私たちはグループの力を結集し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

カラーに込める想い

3つのカラーを用いることで、多様な個性が輝く柔軟性と親しみやすさを表現しています。

カラーの名称

Bright Blue	技術に基づく革新性
Lively Green	グローバルな成長性
Forest Green	森林資源の永続性

タグライン

長期ビジョン2035に掲げる『サステナビリティへの貢献』というスローガンを端的に表現するものです。私たちは、事業活動そのものが地球環境の持続可能性に寄与するよう、今後も全力で取り組んでまいります。

イントロダクション

経営理念、パーパス(存在意義)

Contents

編集方針

At a glance

CEOメッセージ

CxOクロストーク

CFOメッセージ

社外取締役座談会

王子グループの価値創造

中長期成長戦略

サステナビリティ

経営基盤の強化

事業概要

データセクション

Contents

イントロダクション

経営理念、パーパス(存在意義)	01
Contents	02
編集方針	03
At a glance	04

CEOメッセージ

05

CxOクロストーク

09

CFOメッセージ

13

社外取締役座談会

16

王子グループの価値創造

20

価値創造のあゆみ	21
ビジネスモデル	23
経営資源の活用	24
中長期成長戦略とPBR向上の連動	25

中長期成長戦略

26

長期ビジョン2035と 中期経営計画2027の位置づけ	27
事業ポートフォリオ戦略	28
投資規律とキャッシュアロケーション	29
2025年度の振り返り	30
2026・2027年度の重点領域	32
事業環境変動要因	33

成長領域

森林資源を起点とした 成長領域の全体像	34
サステナブルパッケージ	35
特集:OJIサステナマルチ	37
木質バイオマスビジネス	38

イノベーション

イノベーション戦略	42
知的財産戦略	44

サステナビリティ

サステナビリティ・ガバナンス	46
サステナビリティ重要課題	47
持続可能な森林経営	48
人権の尊重	51
サプライチェーンの負の影響の 防止・軽減 - 責任ある原材料調達 -	53

ネイチャーポジティブ	55
カーボンニュートラル	57
サーキュラーエコノミー	59
職場の安全衛生の確保	61

経営基盤の強化

人事部部長メッセージ	62
人財戦略	63
DX戦略	64
社外監査役座談会	68
役員一覧	70
コーポレートガバナンス	73
指名・報酬委員会委員長 メッセージ	74
資本市場との対話	76
リスクマネジメント	82
コンプライアンス	84

事業概要

事業セグメント別戦略	85
産業資材事業	86
生活消費財事業	87
機能材事業	88
資源環境ビジネス	89
印刷情報メディア事業	90

データセクション

グローバルネットワーク	91
財務データ	92
非財務データ	93
会社概要／株式情報／外部評価	94

イントロダクション

経営理念、パーパス(存在意義)	
● Contents	
編集方針	
At a glance	

CEOメッセージ

CxOクロストーク

CFOメッセージ

社外取締役座談会

王子グループの価値創造

中長期成長戦略

サステナビリティ

経営基盤の強化

事業概要

データセクション

CEOメッセージ

王子グループはどのように「製紙の粋」を超えようとしているのか。木質バイオマスビジネスとサステナブルパッケージを軸とした事業ポートフォリオ転換の進捗、中期経営計画達成への道筋、人財・DX・ガバナンス改革への取り組みとともに、森林資源を起点とした価値創造と資源循環の意義についてCEOが語ります。



成長領域

本ページでは、王子グループの次の成長の柱である「サステナブルパッケージ」と「木質バイオマスビジネス」に焦点を当てています。サステナブル製品では、OJIサステナマルチを特集し、顧客起点の製品開発やグループ連携を強みに、事業としての広がり可能性を紹介しています。また、木質バイオマスビジネスでは、AustroCel社の買収をはじめ、バイオマスレジストや医薬・ヘルスケア分野などの進捗と将来展望を掲載しています。



CxOクロストーク

2035年を見据え、CSOの進行のもとCOO・CTO・CIOが集い語り合うクロストーク。制度導入1年の変化を踏まえ、長期ビジョン準備期2年目に向けた連携と意思決定のヒントを探ります。



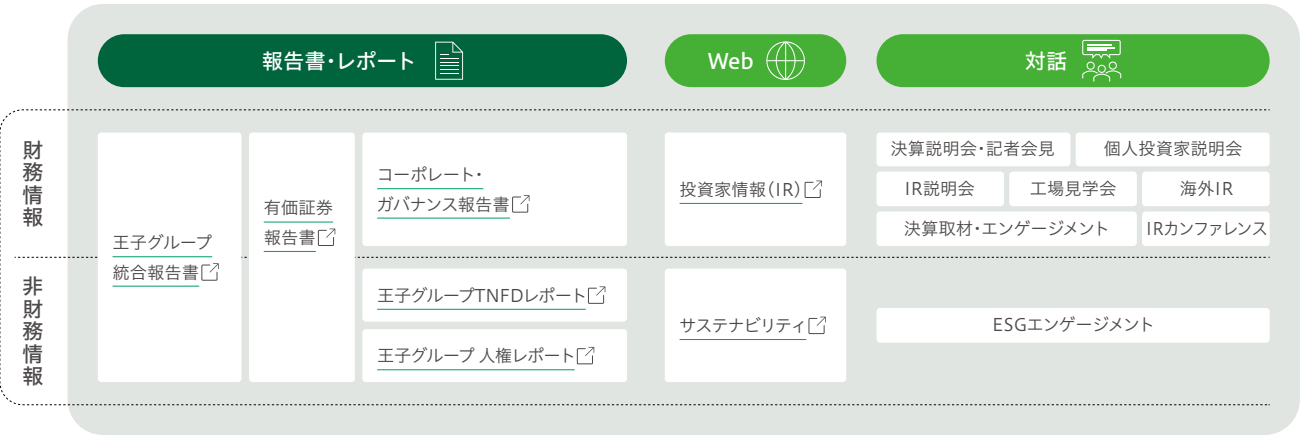
編集方針

2026年度は、長期ビジョン2035の準備フェーズに位置づける3年間の2年目として、長期ビジョンと中期経営計画2027をどのようにつなぎ、具体的な取り組みへと落とし込んでいくのかに焦点を当てています。投資家の皆様から寄せられる「王子グループの改革は本当に成功するのか」という問いに対し、本統合報告書を通じて、その進捗や実効性を多角的にお伝えすることを意識しました。

CEOメッセージでは、2035年に向けて目指す姿と改革の進捗を示すとともに、CxOクロストークでは、それぞれのミッションを踏まえた横断的な議論を通じて、戦略がどのように具体化され、実行へと移されているのかを掘り下げています。また、成長領域であるサステナブルパッケージ、木質バイオマスビジネスの進捗と今後の展望についても掲載しています。

本報告書を通じて、2035年に向けて改革を着実に進める王子グループの成長と進化のプロセスを感じ取っていただければ幸いです。

コミュニケーションマップ



表紙

本表紙では、国内外に広がる王子グループの森と、そこに息づく多様な生き物、そして森とともに働く人々の姿を通じて、森林を育み、その価値を未来へつないでいく王子グループの取り組みと意思を表現しています。



- ①・② ―― 北海道／猿払社有林の風景
- ③ ―― 北海道／弟子屈社有林に生育するホザキシモツケ
- ④・⑥・⑨ ―― インドネシア／KTHの森林と働く人々
- ⑤ ―― ブラジル／CENIBRAに生息するキガオウキンチョウ
- ⑦ ―― 北海道／美瑛社有林に生息するエゾリス
- ⑧ ―― 北海道／苫小牧社有林の風景
- ⑩ ―― 北海道／猿払社有林に生息するエゾクロテン

対象期間

2025年4月1日から2026年3月31日(労働災害安全度数率および海外事業所(一部を除く)の環境関連データは2025年1月1日～12月31日)。ただし、数値データ以外の記事等については、2026年4月以降の活動も掲載しています。

対象範囲

王子ホールディングスおよび連結子会社215社、持分法適用関連会社19社(2026年3月31日時点)を対象としています。対象が異なる場合は、その旨を記載しています。

将来見通しに関する注意事項

本報告書に掲載された業績見通し等の将来に関する情報は、発行時点で入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づき当社が判断したもので、不確定要素を含んでいます。

実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

参考にしたガイドライン

本報告書の編集にあたっては、下記を参考にしています。

- 国連グローバル・コンパクト4分野10原則
- 国際統合報告フレームワーク(IFRS財団)
- GRIスタンダード(Global Reporting Initiative)
- 価値協創ガイダンス(経済産業省)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)

イントロダクション

経営理念、パーパス(存在意義)

Contents

● 編集方針

At a glance

CEOメッセージ

CxOクロストーク

CFOメッセージ

社外取締役座談会

王子グループの価値創造

中長期成長戦略

サステナビリティ

経営基盤の強化

事業概要

データセクション

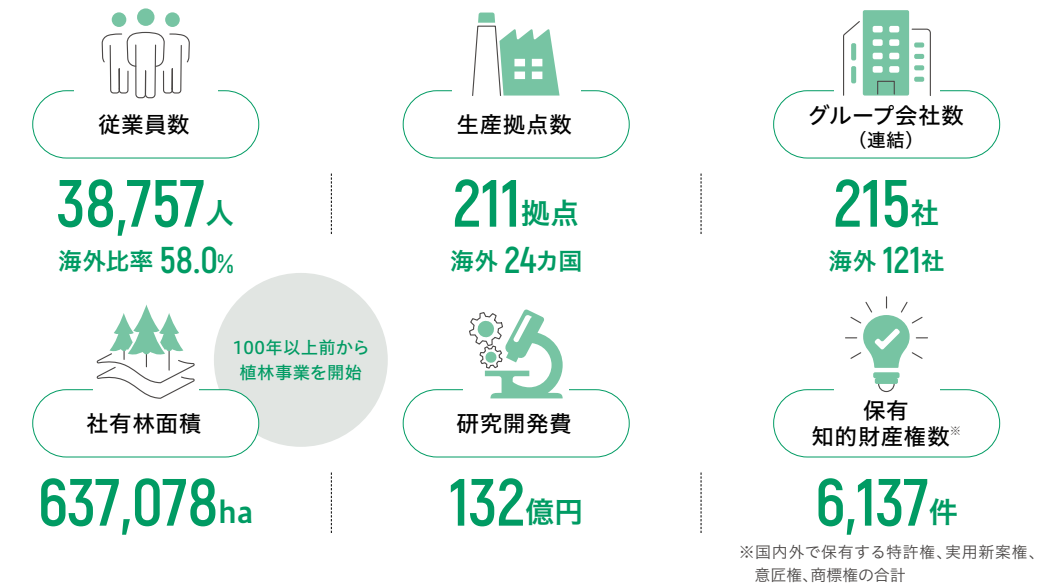


At a glance

事業ポートフォリオ転換を支える財務資本



事業ポートフォリオ転換を可能にする非財務資本

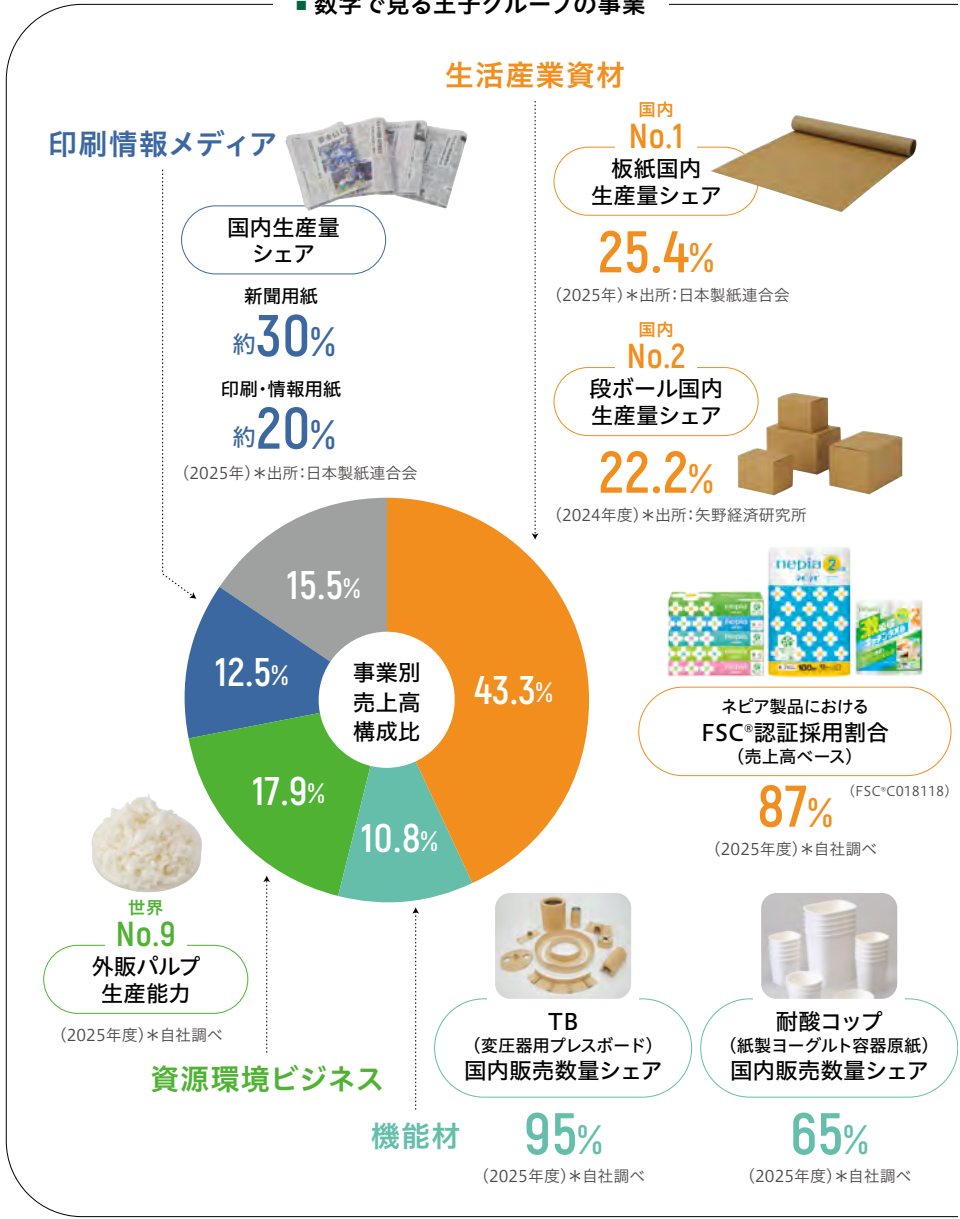


王子グループの立ち位置



*記載のある場合を除き、2025年度(2026年3月末時点)データ
*個別の売上高構成比には調整額(主として内部取引に関わるもの)を含みません。

数字で見る王子グループの事業



イントロダクション

経営理念、パーパス(存在意義)
Contents
編集方針

At a glance

CEOメッセージ

CxOクロストーク

CFOメッセージ

社外取締役座談会

王子グループの価値創造

中長期成長戦略

サステナビリティ

経営基盤の強化

事業概要

データセクション

